The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	「ISO13611:2014通訳 : コミュニティ通訳のためのガイドライン」取得について
Author(s)	市原, 佐和子
Citation	ISOコミュニティ通訳認証実績報告書. 2022, p. 8-10
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/87469
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

「ISO13611:2014 通訳 - コミュニティ通訳のための ガイドライン」取得について

りんくう総合医療センター国際診療科国際医療コーディネーター[1]

ISO コミュニティ通訳認証授与者(20200513)[2]

市原佐和子

はじめに

今回「ISO13611:2014 通訳 – コミュニティ通訳のためのガイドライン」を取得する機会をいただいたので，経緯や気づき，今後の抱負をまとめてみたいと思う．
まず，私は大阪大学外国語学部ポルトガル語専攻を 2017 年に卒業し，現在は大阪府の医療センターで国際医療コーディネーターとして外国人診療に関する業務全般を取り扱っている．ISO 認定を受けたのは 2020 年春だった．新卒入社した，ブラジル人がメインの人材派遣会社で業務にも慣れて，そろそろ次のステップなどを考えていた頃，林田先生からこの ISO 認定を受けては，と勧めていただいた．林田先生とは学生時代，特にブラジル留学後，身につけたブラジル・ポルトガル語をどのように活かしていこうかと悩んでいた時期にコミュニティ通訳や医療通訳の道を示してくださり，その後もいつも何かと貴重なアドバイスや資料，勉強の機会をいただき，今でもお世話になっている．そうした経緯で，ISO 認証を受けることになった．

双方向外国語運用能力チェックテスト

ISO の認証を受けるには，双方向外国語運用能力で CEFR(ヨーロッパ共通参照枠)基準で B2 レベル以上が必要とのことだった．私はこの話が出る以前に，林田先生が開発された双方向外国語運用能力のテストを 2020 年に受けており，基準を満たし，有効期限内であったので，再受検する必要はなかった．改めて，この双方向外国語運用能力についての林田先生の文章を読んでみると，まずは母語による傾聴理解力を鍛える必要があると書かれている．外国語学習というと，当然，その言語の文法や単語，発音などに意識が行きがちで，勿論それも必要ではあるが，通訳の能力には母語の能力もバランスよく向上させることも必要だ

というのは考えたこともなかった．

ISO コミュニティ通訳：適用範囲：感染症，公衆衛生

ISO の「コミュニティ通訳の理念」を見てみると，「行政や教育等，生活のさまざまな場面での業務が必要となる通訳業務であり，『基本的人権へのアクセス』という理念がその基盤にあります」[3]とある．もともと，日本に住むブラジル人の生活をより良くする手助けをしたいと思っていたが，留学後に出会った医療通訳という仕事は，医療系にも興味のあった私にとってコミュニティ通訳の中でもとても興味深いジャンルだった．もちろん責任は重く，シビアな場面もあり，単なる言語運用能力以外にも様々な高い能力が求められる．高い能力が求められる一方で，正式な資格がなくボランティアベースが未だに多いというのがこの業界の課題でもあった．それが，今回，コミュニティ通訳という形で，世界的な基準が出来たことで，少しでも通訳，医療通訳が社会にその必要性を認められるようになり，社会的立場が上がればうれしい．

最後に

2024 年には免許更新となる．今回の取得では実践の経験がまだ少ない中での取得となったが，次回にはさらなる日本語とポルトガル語双方の語学運用能力向上と実践経験を積んで更新に臨みたいと思う．

参考文献：

林田雅至（2019）「外国語学習における媒介語の重要性」『国際語としてのロシア語 ：国際統一基準による言語 能力レベル評価システム構築の現状と将来的課題』2018 年度 大阪大学国際合同会議助成事業，pp.61-71.
https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/85111/krussia_061.pdf（最終閲覧日：2022 年 1 月 31 日）

（投稿日：2022 年 1 月 31 日）
（受理日：2022 年 2 月 10 日）

[1] http://www.rgmc.izumisano.osaka.jp/department/international1/international3/（最終閲覧：2022 年 1 月 31 日）
[2] https://www.tourism.ac.jp/news/cat1/8428.html（最終閲覧日：2022 年 1 月 31 日）
[3] https://www.tourism.ac.jp/news/cat1/8575.html（最終閲覧日：2022 年 1 月 31 日）